



キンシャサの軌跡



JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2015年6月 Vol. 16

Congo Shot! -今月のコンゴ-

最近のコンゴ民は…受賞ラッシュ!



INRB 所長 (ムエンベ教授) 授賞式の様子
(<http://www.fondation-merieux.org/prix-christophe-merieux-2015>より転載)

現場主義! をモットーに、今日もカウンターパートと協議をすべく、事務所員はアポとり奔走! ところが、「今、コンゴ民にいないんだけど」とはコンゴ民側関係者。バカンスには早いはずと聞けば、海外での授賞式に出席中とのこと。今、コンゴ民は受賞ラッシュを迎えているのです★第1弾は5月25日のINPP(国立職業訓練校)。革新的リーダーシップを発揮している団体としてスペイン系コンサルタント会社BIDから受賞。次いで6月1日に、キンシャサ・ンガリエマ病院の看護師長が5S KEIZENを活用した看護サービス改善への貢献を称えられ仏語圏看護学会にて受賞。さらに6月3日には、INRB(国立生物医学研究所)所長がエボラ研究第一人者としての功績に対し国立学術団体Institut de Franceから受賞。人づくりと人びとの命を守る偉大なリーダー達と共に私たちJICAの挑戦は続きます!

季節の変わり目、風邪か、マラリアか? コンゴ民病気・医療事情

Congo Life! -コンゴで生きる-

季節が雨季から乾季に変わった6月半ば、キンシャサでも朝晩が冷え込むようになりました。乾季は常に雲が幕を張っているかのようにどんより曇り空。気温が下がるものの湿度は下がらず。急な気候の変化で事務所でも体調を崩す人が続出。あちこちで咳き込む音が所内に響く!?

マラリア流行国であるコンゴ民では体調を崩し、熱を出すとまず疑うべきはマラリア! 38度近い熱がある場合はとていえず医療機関へGo! 医療事情はあまりよくないコンゴ民ですが、マラリアの治療に関しては迅速に検査でき、薬も容易に入手できるため早期診断、早期治療が肝心! 夜中に熱を出した場合に備えて家にマラリア簡易検査キットとマラリア治療薬(Coartem)を常備するのもおすすめ☆

キンシャサで体調を崩した場合、外国人でも安心して受診できる病院もいくつかあり、救急救命センター(CPU)に登録していれば急病やけがの際に緊急搬送を含めて対応してもらえます。ギンシャ人の歯医者さんが構えている歯科医院で基本的な歯科治療もできます♪

でも何よりも健康で過ごすことが一番! コンゴ民滞在中はマラリア予防のために虫よけ対策を忘れずに!



おすすめ☆マラリア簡易検査キットと治療薬



どんより乾季の曇り空
(事務所からの景色)

Eat Congo! -コンゴで食べる-

今日はヤギニクの日!



お肉の部位はよ〜く選んでね★



完成!
もっちりシクワンと一緒にいただきます。

日曜日の屋下がり、教会から帰ってきたキンシャサっ子たちが憩うのは、焼肉屋…ならぬヤギ肉バーベキュー屋さん。キンシャサの歓楽街の一角、ボン・マルシェには、道沿いにびっしりとバーベキューの店が並びます。メニューはだいたい、ヤギ or チキン。台に並べられたもも肉、あばらやレバーなどの部位を金串でつつきながら、「これ!」とチョイスすれば、玉ねぎとソースと和えてしばし鉄板で焼いてくれます。その間、1本頼むとなぜか必ず2本来るビールを飲み始めれば、ピーナッツ売りのお兄さんが「おつまみどう?」と通いかかる。ビール2本×2回でほろよい気分になったころ、ヤギが焼き上がります。仕上げは紙に包んで油を加え、蒸し焼き。みんな大好きシクワン(第13号参照)を添え、ピリピリを付けていただきます♪一口サイズに切って提供してくれるのですが、骨が多いので、口の中でもゴモゴモしていると「骨も食べるんだ!」と同席のコンゴ人。え〜?と思いつつ骨までしゃぶりたいくなる、脂肪は少な目だけど味わい豊かなヤギ肉。お値段は1ピース2500フラン(約340円)程度と、当地の人々にとって決してお安くはありませんが、ちょっと特別な日のごちそうとして、欠かせないメニューです。そして気が付けば日が沈み、お店の裏手にあるクラブから聞こえる音楽が段々大きくなってきます。まだまだ夜は始まったばかり。3ラウンド目のビールを注文し、明日が月曜日なことはとていえず忘れよう…

2012年のとある夜の西新宿の居酒屋での歓迎会。熱弁振るうは、齢60頃のおじさま。うん、うん良くある夜の居酒屋、えっ、スピーチしているのはなんと、コンゴ人!?マタティ橋維持管理能力強化プロジェクトの研修のために再来日したバナン・キンシャサ交通公団(OEBK)のマティアッタ氏です。この歓迎会には総勢30名の日本人関係者が集結しました。「皆さんの任期は概ね2年でしたが、私はずっとマタティ橋のそばに寄り添ってきました。それを誇りに思うと同時に、そのおかげで今日の出席者全員の顔と名前を覚えています。」そう、マタティ橋を現地で守ってきたのはまぎれもなくOEBKのスタッフなのです!

場所は替わって、2013年6月、「オイエ!」(リンガラ語で「万歳!」)のかけ声がマタティの夜に響きわたりました。その掛け声の音頭をとったのは、今度はなんと日本人!?ここは、「マタティ橋30周年記念」のパーティー会場。OEBK主催の記念式典には、マタティ橋建設に従事したOBたち、自称「七人のサムライ」が、30年ぶり(もしくはそれ以上)に日本から現地に私費で駆け付けたのです!完成前に帰国を余儀なくされた関係者は、初めて開通後のマタティ橋を見て、「30年経ったとは思えないほどの美しさ!」と驚嘆!(詳しくは第4号参照)

建設当時からOEBKで活躍するマティアタ氏やカロンボ氏といったエンジニアがしっかりとメンテナンスをしてきましたが、さらなる技術向上を目指して行われたマタティ橋維持管理能力強化プロジェクトでは、この二人にも活躍してもらいつつ、次世代を担うエンジニア達への技術移転を行いました。コンゴ人と日本人とを結ぶマタティ橋。有形無形のこの財産をコンゴの次世代の人達がさらに未来へと継承すべく、バトンが繋がっていきます!(終わり)



「オイエ!(万歳)」を三唱するサムライ達★



久野真一/
JICA

若手に指導するカロンボ氏(右端)

のどと心の癒し★ビール製造を支える! INPP油圧・空圧専門家!

コン月のイベント



コンゴ民の経済とJICAスタッフの心を支える★ビールタンク★



油圧の特性につき確認する伊東専門家

行ってきました!ビール工場★飲むのも仕事!(ウソです。飲んでません(涙))5月にキンシャサに降り立った伊東専門家と木村専門家ともに訪れたのは、1923年創業の老舗ビール工場「フリリマ」。同社は、コンゴ民のGDPの2%に貢献している(同社パンフレットより)とともに、当事務所スタッフの心の健康(仕事後のおいしいビール☆)を支えていると言っても過言ではありません!さて、今回は、2人の専門家とともに同社の「油圧・空圧」の使用状況をチェックしてまいりました!そう、このお二人は、国立職業訓練機構(INPP)能力強化プロジェクト(技プロ)の油圧・空圧の技術トレーナー研修に携わって下さっている専門家です。で、ビールと油圧・空圧、どんな関係が?例えば、使用済のビール瓶をケースから取り出し、洗浄し、ビールを注入するといった一連の作業に活躍するいろいろな機械の中に、あっちは油圧、こっちは空圧、と適材適所に使われているのです。企業での油圧・空圧の活用状況、そして、企業が求めている訓練ニーズを確認した上で、今後の訓練の内容・計画の作成支援をします。その一環として、6月10日~12日の3日間、油圧・空圧のワークショップを開催しました。まずは、機材を使いながら、油圧の特性について皆で確認!その後は、座学。先に機材で実演しながら見た特性について、数式でさらに理解を深めます。今回のワークショップの参加者は、INPPではトレーナーとして生徒に教える立場。そのため、伊東専門家からは、機材使用時の安全についてのレクチャーも行われました。安全★第一。油圧・空圧技術を身に付けたINPP卒業生が、コンゴ民ビールの生産力アップに貢献する日も近い!?

愛すべき?コンゴ人

編集後記



所属:保健省基礎教育局
氏名:コンバ・ジェコ局長

コンゴ民保健省基礎教育局(第6局)長にして看護協会(ANIC)代表のコンバ氏。保健技プロの主なCPの一人であり、INPESS(無償資金協力:保健人材養成校)の監督もしています。

背も高く迫力満点☆あだ名はコンゴ民のジャイアン!

<☆今月のリンガラ語☆>「ヤ ソロ」
いろんなことが起こるコンゴ民。否定してくれることを期待して「ヤ ソロ?」と問いかける今日この頃。
前号の答えは、「リカンボ テ」=「問題ない。ノープロブレム!」。この言葉をかけられ、「問題だらけじゃん!」と必死でやり合い、ようやく問題が片付いた後、「リカンボ テだっただでしょ?」と笑顔で言われると、そうだね、大したことなかったわー、と答えてしまうのはコンゴ慣れしすぎかも。。
乾季に入り、とっても涼しい毎日ですが、健康管理のためにビールで適度なアルコールを摂取しつつ、コンゴ民経済にも貢献!?次号からは、コンゴ民を股に掛けて活躍する保健プロジェクトの連載の始まりです♪乞うご期待!